２０２５ 安全とマナーのルール

関西学院大学
甲南大学

基本方針

2025 年の安全対策の基本方針として、チームの強化を図る際には、お店や海上保安庁のレスキューに依存することを可能な限り避け、自己責任の意識を徹底するとともに、チーム全体の責任で安全対策を講じてまいります。この方針のもと、強風のコンディションに無理せず段階的に挑戦を重ねながら、チームの技能向上を目指します。また、お店や一般会員、地域住民の皆さまとの良好な関係を重視し、支援や応援をいただきながら、安全の確保とチームの成長の両立を実現していきます。これらの取り組みを通じてチームのさらなる発展を目指し、インカレ個人戦および団体戦での好成績の獲得を目標とします。

安全について

暴風警報が発令されている時の出艇制限はどうするのか

台風の影響で暴風警報が発令されている時は湾内でもアウトでも練習しません。
台風の影響以外の理由で暴風警報が発令されている時はアウトでは練習しません。

強風注意報が発令されている時の出艇制限はどうするのか

Windguru での予報において、Wind speed（平均風速）が 10.0 m/s 以上、または Wind gusts（最大瞬間風速）が 15.0 m/s 以上の場合は、アウトで練習を行いません。
なお、練習を中止する時間帯は、予報された該当時刻の 4 時間前から 2 時間後までとします。

安全協議会：天気予報サイトの風速予測と、実際の風の強さが必ずしも一致するわけではありません。場合によっては、予報された風速の 1.5 倍程度の強風が吹くこともあります。たとえば、予報で平均風速 10.0m/s、最大瞬間風速 15.0m/s とされている場合、実際には平均風速 15.0m/s 以上、最大瞬間風速 22.5m/s 以上の風が吹く可能性があります。このような過酷なコンディションでは、甲子園浜のレスキュー体制では、安全な救助活動を行うことが困難となり、海上保安庁に救難要請をする必要があります。そのような事態を防ぐため、上記の気象予報の際は全員がアウトでの練習を控える方針となりました。

自主練の安全対策をどうするかヨット部のように自主練でも船を出さなくていいのか

現状として、自主練ではヨット部のように船を出すことができませんが、代わりに「りざぶ郎」の予約システムや、出艇基準による制限を活用して、安全を最優先に練習して漂流事故を未然に防ぐよう努めます。

予約システムへの書き込み期限は、できれば前日まで遅くとも出艇の 2 時間前までに変更となります。
出艇基準について以下の変更を行います。
出艇基準の「Max」項目を「Wind Gusts（最大瞬間風速）」に置き換えます。
アウト出艇禁止の時間の「予報時刻の１時間前」は、１時間前までにオフショアーなら湾内まで、オンショアーなら切れ端内まで戻るという意味です。
アウト出艇禁止の時間の「予報時刻の２時間後」を「予報時刻の１時間後」に置き換えます。
A ランクの出艇基準「オン」の風速を Wind Gusts（最大瞬間風速）13→14 に変更します。

安全協議会：今回のミーティングでは、各自の判断で出艇できる範囲を広げることを目的に、一部のルールを緩和しました。ただし、これは出艇基準を満たせば無条件に出艇してもいいという趣旨ではありません。特に A ランクの出艇基準のコンディションでは、ショップのレスキュー艇による救助が、困難もしくは不

可能となる可能性があります。この点をご理解していただいた上で、各チームは A ランクの認定に際して慎重にご判断いただきますようお願いします。また、すでに A ランクを保持されているみなさまも、出艇の可否や乗るエリアにつきましては、自己責任のもとで十分ご検討いただきますようお願いします
。
また、昨年まではなかった1回生の出艇ランクを新たに設定します。
◯1回生の出艇ランクの判断は幹部を中心に 4 回生の意見も交えながら判断します。
◯出艇ランクアップの判断基準について
1、海上解体が出来ること
2、適切判断ができるか（無謀出艇をしない、切れ端に帰ってきやすい場所で乗る、安全な場所で乗る）
3、帆走能力（セールアップができて、進みたい方向に進むことができる、風上へ上れる）この基準を加味して、1 ヶ月スパンでランクの見直しを行います。

さらに、自チームの警戒船（ラナイズ号やシーユー号）が出艇しない日はすべて自主練として扱います。そのため、必ず「りざぶ郎」を活用して、事前に出艇計画を提出して、出艇制限を厳守することとします。

漂流事故などが発生した際に海上保安庁に連絡する時の判断の基準
漂流者が目視できず携帯電話も通じず行方不明になっている場合、または、漂流者が複数人おり、さらに風速が 10m/s 以上の条件下で、全員を迅速に救助することが困難または不可能と判断される場合は、緊急事態の発生と認定してただちに海上保安庁および各ショップへ連絡してください。

岩場やテトラポットの近くまでプレーヤーが流された時はどのように対応するのか
危険な場所において、命に関わるような深刻な状況でない限り、船を使ったレスキューは基本的に行いません。これは、船が座礁して損傷するリスクが高いためです。
岩場やテトラポッド、岸壁の近くでは、SUP、水上バイク、E-FOIL、などを使用して救助を行うか、テクノ、船、自転車、バイク、車などを活用して現場に向かい、陸上からの救助を試みます。

安全協議会：レスキュー艇は主にオフショアのコンディションで、沖へ漂流した際の救助を目的として用意されています。オンショアのコンディション下でのレスキューには、船が座礁して破損するリスクがあることを十分に認識してください。オンショアでは、命に関わるような深刻な状況でない限りは、安易にレスキュー艇に頼るのではなく、各自の責任において、適切な対応で危機回避することを心掛けてください。

練習中に一般セイラーから救助の要請があったらどうするのかショップに連絡や相談をした上で自分たちで安全に救助することが可能なら救助する
救助することが困難な場合は別の艇が到着するまで見守るなどできる限りの対応をする

練習日に船に乗らなければいけない人員の資格はどうするか
Windguru で Wind gusts 8m/s 以上の予報では幹部以上の責任者が 1 名以上船に乗る
Windguru で Wind gusts 8m/s 未満の予報では 2 回生以上の部員が 1 名以上船に乗る。

ルーフキャリアにボードを積む際のルールをどうするのか
ハイエースの場合はキャリアを３本取り付けた状態でボードは６枚まで

セイルの置き方や運ぶ順番について
吹いている時も吹いていない時も、準備する時はボードが先、片づける時はセイルが先の手順をチームの習慣にする。絶対にセイル単独で砂浜や人工芝に放置しない